

世界の主要な株価指数先物と 日経 225 先物を比較する

株式会社 フィスコ

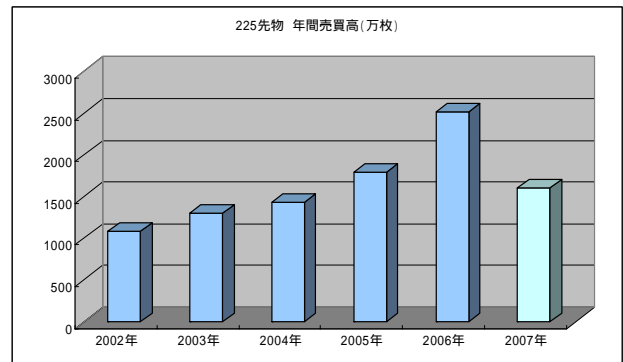
統括執行役員 伊藤 正雄

日経 225 先物のここ最近の出来高増加は目を見張るものがある（グラフ 参照）。2007 年 7 月末にはマーケットが急落した影響も大きいですが、当限だけで日々 10 万枚を超える商いが続いている。2006 年 7 月に日経ミニ先物が上場し、個人投資家の参加者の裾野が拡大したことが大きく寄与したと思われる。実際、4 年前の 2003 年には個人投資家の全体の取引高に占める売買比率は 1% にさえ満たなかった状況だった。それが、2006 年には約 7.6% と大幅に上昇し、2007 年 7 月には約 12.9% と売買シェアを確実に拡げている。市場経済がグローバル化することによって、日経 225 先物も NY はもとより、中国やヨーロッパなどの各株式市場のマーケットの影響を避けられなくなってきた。

さて、2007 年の 7 月における一日の平均出来高が約 9 万枚、売買代金が約 1 兆 6000 億円ある日経 225 先物だが、世界の主要な株価指数先物にはどのような指数先物があり、それらと比較すると売買高、売買代金はどの程度のレベルなのか調べてみた。

表（別紙）では、世界の主要な株価指数先物（当限）を米国、欧州、アジアと一覧にした。指数、為替レート、建玉は 7 月末のデータ、出来高に関しては 7 月 1 ヶ月間の平均値を採用した。S&P500 とナスダック 100 先物に関しては、ミニ取引の売買

グラフ（2007 年は 1 - 7 月）



代金が多いのでミニ先物を掲載した。1 枚当たりの約定代金が大いなのは DAX の 3000 万円、日経、ハンセン、FT 100 が約 1500 万円、KOSPI、S&P 500、EURO STOCK 50 が約 800 万円、ナスダック 100 が 400 万円台と約 2 分の 1 ずつぐらいの売買代金が並ぶ。一番、小額のナスダック 100 から見ると DAX が 7 倍ぐらいといった感じである。ただ、S&P500 とナスダック 100 に関してはミニは大型の 5 分の 1 の約定代金なので、S&P500 ラージは 4330 万円、ナスダック 100 ラージは 2300 万円の約定代金となる。

次に出来高を見ると、一番多いのが S&P500 ミニで約 160 万枚（大型は約 3.6 万枚）も出来ている。これに続くのが EURO STOCK 50 で約 120 万枚出来ている。この 2 つが米国と欧州の 2 大先物となっている。この 2 大先物に大きく離れてナスダック 100 で約 37 万枚（大型は 4300 枚）、これに DAX、KOSPI が約 20 万枚と続く。FT 100 と日経 225 が約 10 万枚、ハンセンは 5 万枚となる。

売買代金で一番多いのが S&P 500 先物で約 13.9 兆円、これに EURO STOCK が 8 兆円、DAX が 6 兆円と続く。KOSPI は約

2兆円、これにナスダック、FT、日経 225 が 1兆 5000億円、ハンセンが約 9000億円と並ぶ。

最後に建玉の金額ベースで見ると、EURO STOCK 50の 19兆 5000億円、S & P 500の 17兆となるが、S & P 500のラージの建玉は 25兆 2000億円あり、実際は S & P 500 が大きい。これに DAX が 12兆円と続く。KOSPI の建玉は売買代金より小さく、いかに短期売買が多いか推測出来る。

それでは、主要な株価指数先物をもう少し詳しく紹介する。

S&P500 先物 (米国)

米国、いや世界の先物の代表ともいえる株価指数先物で米国株の全主要業種の中から代表される 500 銘柄で構成される加重平均指数である。1941 年から 1943 年の平均を 100 として算出しており、上場先は CME (Chicago Mercantile Exchange の略称) で日本語に訳すとシカゴ商業取引所となる。株価指数、金利、外国為替、農産物の先物とオプションの取引を行う世界最大の先物取引所で、S&P 500 のラージは昼間はフロアで取引されている。

ナスダック 100 先物 (米国)

こちらは店頭市場であるナスダックに上場している先物。よくニュースなどで報道されているナスダック指数とはナスダック総合指数のことで、こちらは全銘柄の加重

平均となる。ナスダック 100 先物は主要 100 銘柄の加重平均指数を対象としている。

EURO STOCK 50 (欧州)

ダウジョーンズのインデックスで欧州の優良株式 50 銘柄で構成される加重平均指数の先物である。1991 年 12 月 31 日を 100 として算出。欧州の株価指数先物の代表的な存在となっている。

ハンセン指数先物 (香港)

香港取引所の時価総額の約 3 分の 2 を占める 38 銘柄で構成。1964 年 7 月 31 日の時価総額を 100 として算出。銘柄数が少ないことや H 株が採用されることになったことから指数構成銘柄のウェートの上限は 20% 以下に押さえてある。

KOSPI 200 先物 (韓国)

韓国証券取引所の主要 200 銘柄で構成される加重平均。取引所全体の 93% をカバー、1990 年 1 月 3 日を 100 として算出。先物は 1996 年からスタートした。出来高が多い先物として注目度は高い。

以上、世界の主要な株価指数先物を紹介したが、その他の株価指数先物も見てみる。

南米のブラジルにはボベスパ指数という先物がある。約 60 銘柄で構成され、出来高加重トータルリターン指数という珍しい指数で算出されている。出来高は 1 日約 10 万枚と多い。メキシコはボルサ指数で、35 銘

柄で構成される時価総額加重平均指数であるが、出来高は約 3000 枚と少ない。ヨーロッパではメジャーな先物ではフランスの CAC40 といった指数の先物がある。パリ証券取引所の 40 銘柄で構成される調整時価総額加重平均指数で、1987 年 12 月 31 日を 1000 として算出されている。出来高は約 15 万枚と多い。インドのムンバイ証券取引所には S E N S E X 30 という指数の先物が上場している。1978 年～1979 年の時価総額を 100 として算出し、30 銘柄で構成。1 日 2 万枚の出来高がある。

また、市場関係者の話しによると中国本土市場の株価指数先物として「上海深セン 300 株価指数先物」が 2007 年の秋にもスタートする予定である。同指数は上海、深セン取引所の時価総額の 6 割をカバーするともいわれており、世界的に注目度の高いマーケットだけに目を離せない。

各国の先物を見渡すと、S&P 500 は日経 225 先物の売買代金の約 9 倍と正に World Equity Index の King of King といった存在である。EURO STOCK 50 もアメリカの S & P 500 と並ぶヨーロッパを代表する株価指数先物である。ユーロ圏の経済が拡大する中、まだまだボリュームは増えそうだ。実際、日本の個人投資家が今後、海外の先物をトレードするとなるとこの指数先物が一番利便性が高いと思われる。そしてアジア市場では日経 225 先物である。会社員の方は日中、マーケットに張り付くことは出来ないが、欧州時間ならば仕事を終えた後に自宅からでもトレードが出来る。また、大証の日経 225 先物のイブニングセ

ッションが 9 月 18 日から始まり、取引時間は午後 4 時 30 分から午後 7 時まで可能となる。欧州の取引所にも上場し、相互決済となれば、より利便性は高まると思われる。

以上、海外の主要な株価指数先物を紹介した。出来高は少ないが、まだまだ、たくさんある株価指数先物が世界にはある。今後、BRICS、VISTA など新興国の発展が目覚ましいことから新しい株価指数先物も生まれてくるであろう。

表

世界の主要な株価指数先物

		指 数	約定代金 / 1 枚	出来高 / DAY	売買代金	建 玉
米 国	S&P500	1,462	867 万円	1,603,754	13 兆 9,000 億円	17 兆 0300 億円
	ナスダック 100	1,945	460 万円	369,454	1 兆 6,900 億円	2 兆 0700 億円
欧 州	EURO STOCK 50	4,328	702 万円	1,231,531	8 兆 6,500 億円	19 兆 5,000 億円
	DAX	7,614	3,090 万円	209,190	6 兆 4,600 億円	12 兆 2,600 億円
	FT100	6,353	1,530 万円	105,239	1 兆 6,100 億円	7 兆 8,000 億円
アジア	日経平均	17,280	1,728 万円	89,899	1 兆 5,500 億円	5 兆 5,200 億円
	ハンセン	23,219	1,759 万円	50,894	8,953 億円	2 兆 1,500 億円
	KOSPI	245.3	953 万円	207,857	1 兆 9,800 億円	8,570 億円